

発寒川扇状地—地すべりによる河川争奪—

宮坂省吾(株式会社アイピー)・坂下哲哉(札幌市立中央小学校)
 ・岡村 聡(北海道教育大学・北海道土質試験協同組合)

1. はじめに

札幌市西部を流れる発寒川はアイヌ語名「ハチャムペツ」(桜島の川:以下ハチャム川)として、サッポロ川(豊平川)やツイシカリ川(厚別川)とともに古くから知られていた(「津軽一統志」1670)¹。この川は手稲山背後の山地を活発に浸食して、発寒川扇状地を形成し、さらに10 kmあまりも湿原を流れ石狩川に注いでいた²。

今回の報告では、扇状地形成の中頃に扇頂域が地すべりで埋積され河川争奪が起ったことについて述べ、アイヌ語地名の成立に影響を及ぼした可能性を示す。

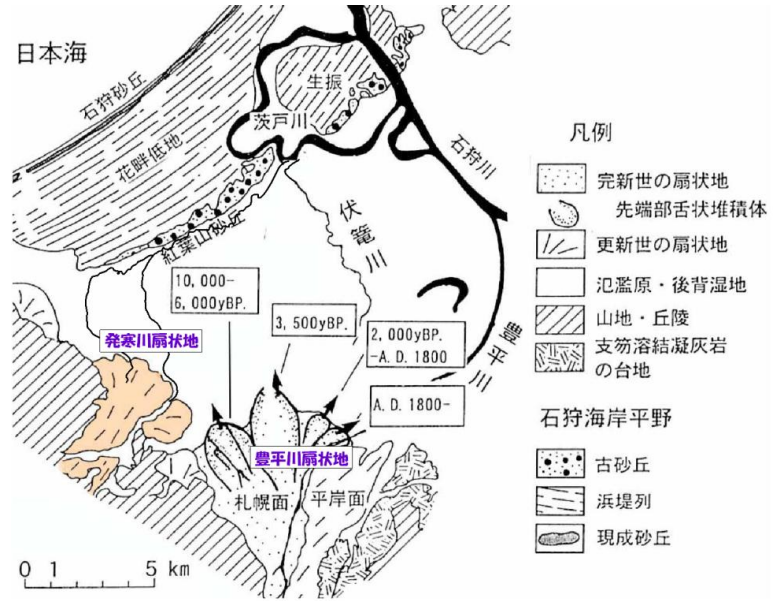


図 1. 発寒川扇状地の位置(大丸 1989 に加筆)

2. 発寒川扇状地

札幌市西区の平和～西野から JR 函館本線付近まで広がる発寒川扇状地³は、北西の手稲山と南東の三角山の山並の間に湾入した広い谷を埋めるように形成されている(図 2)。扇状地の主部(扇状地 A)は北東に延びるが、一部は東に張り出し琴似川に迫っている(扇状地 B)。

扇状地 A のコンターは琴似発寒川の流路の方向に直交していることから、砂礫の供給源は本流と考えられている(下川 1996)。支流の左股川の堆積域は合流域上流に限られ、扇状地形成にあまり関係していないように見える。

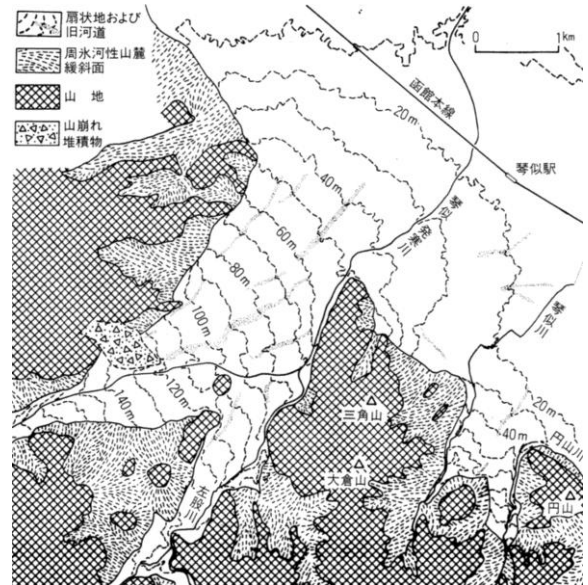


図 2. 地形区分図(下川 1996)

3. 扇頂域の地すべり堆積物

扇頂域に広がる小丘は、下川(1996)により扇状地を覆う山崩れ堆積物であるとされた(図 2)。なお

¹ 関秀志氏(元北海道開拓記念館)の御教示による。これらのアイヌ語地名は『津軽一統志』(1670)などに記録されており、川の成立に関する最初の文書資料となっている。
² 発寒川は新川開削によって古い水系は断たれ、上流は琴似発寒川と改称された。発寒川の名前は下流域にのみ残されている。
³ 発寒扇状地(下川 1996)あるいは「発寒川扇状地」と呼ばれる(尾崎ほか 1965)。ここでは、大丸(1989)の「豊平川扇状地」にならい、「発寒川扇状地」と呼ぶ。

小山内ほか(1956)は、この小丘が西野層により構成されるとした。昭和 25 年版 5 万分の 1 地形図では、小丘の規模は基底部からの高さ25m 前後、扇状地上での長さ500m ほどである。この地形は、最近では道総研地質研究所 Web「北海道の地すべりデータマップ」および防災科技研「地すべり地形分布図 Web-GIS(データ版)」で地すべり地形として判読された。筆者らは、この見解に従う。

4. 河川争奪による載頭河川の成立

ハチャム川は、もともと扇状地 A を作って北西へ流れていたと考えられる(図 3 上の「扇状地 A?」)。その後、流路を北東に替え、扇状地 B を形成したと考えられる。

その後、扇頂域で流路が地すべり堆積物によって埋積されたために水無川になり、載頭(断首)河川が形成されたのであろう。そのため、後にポンハチャム川(小さい桜鳥の川)と呼ばれるようになったと考えられる。

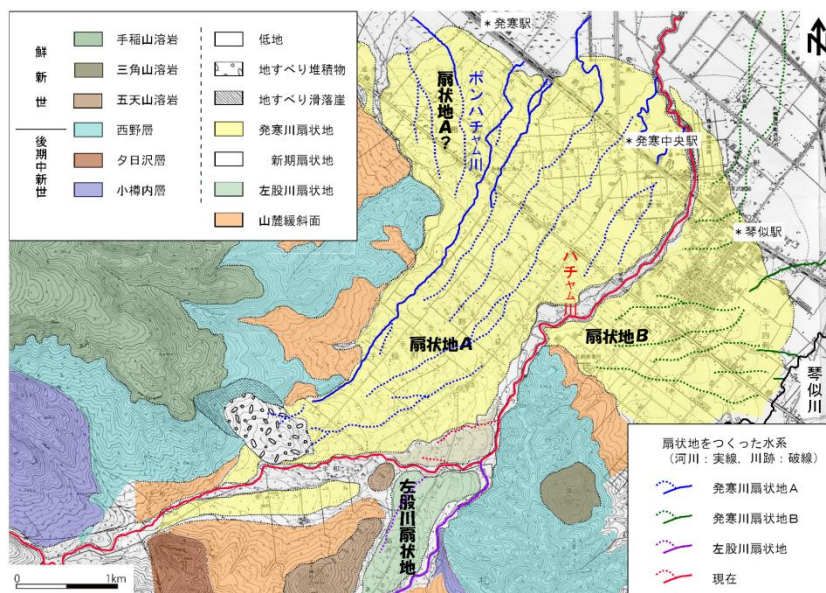


図 3. 発寒川扇状地周辺の地質図(坂下 2011 に加筆)

5. ハチャム川の成立

流路を変えた本流は三角山の裾を北へ流れ、富茂登橋付近から東に張り出す扇状地 B を形成したようだ。その後、本流の下刻が進んで流れを北に替えたのであろう。このようにして、17 世紀後半に記録されたハチャム川は成立したのである。地名の定着時間を考慮すれば、本流ハチャム川と支流ポンハチャム川の成立はさらに古く遡るであろう。これらの地名は「少なくとも 17 世紀には成立していた」ことは確かである。したがって「扇頂域の地すべり発生は 17 世紀より古い」と言っても良いだろう。

6. おわりに

「ハチャムベツ」(桜鳥の川)は和名を「初寒川」あるいは「発寒川」とされ、新川開削の後に琴似発寒川と改称された。川は、流路も名称も風景も大きく変わったが、今は川沿いにカモメが舞う。暴れ川は砂防ダムなどによって治められたようであるが、失った自然がある。ハチャム(桜鳥)やカムイチュエブ(鮭)が蘇ることを希望するものである。

<文献>

- 牧只右衛門・秋元六左衛門(1670)石狩地形の事. 津軽一統志 卷第十之下. 新北海道史 第 7 巻資料 1. 177-178.
- 大丸裕武(1989)完新世における豊平川扇状地とその下流氾濫原の形成過程. 地理学評論 62A-8, 589-603.
- 加藤好男(2017)19 世紀後半のサッポロ・インカリのアイヌ民族. サッポロ堂書店, 113 頁.
- 小山内 熙・杉本良也・北川芳男(1956)5 万分の 1 地質図幅「札幌」及び同説明書. 北海道地下資源調査所.
- 尾崎次男・岸 和男・狛 武・横田節也(1965)地質調査所月報, 16, 1, 1-24.
- 坂下哲哉(2011)手稲火山の基盤をなす新第三系の火山層序と岩石学的検討. 北海道教育大学 2010 年度卒業論文.
- 下川和夫(1996)発寒扇状地. 札幌市教育委員会編「さっぽろ文庫 77 地形と地質」, 44-47.